

富裕層観光客を対象に誘客を強化

インバウンド向け受入体制強化モニターツアー

外国からの旅行者（インバウンド）増加に伴い、本市でも受け入れ体制を強化しようと、市は14、15の両日、雅縁（東京都）の和田瑛子代表と同社の通訳案内士ら10人を招き、「インバウンド向け受入体制強化モニターツアー」を実施した。

ツアー一行は、芦辺町の老岐の蔵酒造の蔵や、郷ノ浦町のなかはら陸上



養殖の事業、郷ノ浦漁協の競りの様子などの事業を視察、郷ノ浦町の岳の辻展望台や芦辺町の左京鼻、勝本町の辰ノ島などの主要な観光地を見学し、本市の歴史や文化、自然環境などを確認した。15日は市内観光関係者など約25人を対象に、和田代表による「富裕層インバウンド市場における観光案内について」の講演と、通訳案内士による本市の印象や意見などを発表した。

講演で和田代表は、富裕層は迅速かつ臨機応変な対応が重要として「天気が悪い日は何ができるか、状況に応じた臨機応変さが旅の印象を大きく左右する」と、おもてなし対応の基本を説いた。

近年の富裕層が好む

地域では、「観光客が少ない、日本ならではの美しい景観、特別感ある体験、地域ならではの美食、貸し切りの空間が好まれる傾向。本市は該当する項目が多く、島にあるいくつかの素材で観光コンテナツを造成すれば、プランが作れる」とし、「本市は、富裕層に魅力ある地域。客層によって変わる食事や、移動中にも景色が見られるよう座席が高い車両の準備、トイレなどの生活感、自分だけの空間提供の貸し切り体制などが必要」と説明した。

通訳案内士は「水と食は島の大きな魅力。世界に知られていない魅力がまだ他にもある。インバウンドのポテンシャルは高い」と評価した。

同社は、インバウンド向けの観光ツアーを手がける会社で、特に富裕層を主なターゲットとしたツアーを展開している。